

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	専門演習Ⅳ		
担当者(Instructors)	岩本 光一郎	配当年次(Dividend year)	4
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)
本演習では専門演習Ⅰ～Ⅲに引き続き、行動経済学に基づいて人間行動について考察することを目的として以下の活動内容を実施する事は同じであるが、特に今期はこれまでの活動の成果を卒業論文としてまとめ上げることを目指す。・人間の非合理的な一面に着目し、現実の社会における様々な事象の理解に役立つ行動経済学を学ぶ・現実の社会における行動経済学の知見の活用例を見つけて、その内容を理解する・データを活用して、行動経済学の視点から人間の行動を分析・考察する

■ 授業形態・授業の方法(Class form)	
授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	毎回の演習では図書館やインターネットでの調べ物の結果や卒論作成の過程をまとめたレポート等についてのプレゼンテーションを行い、その内容について教室内で討論を行う。そのため、演習時にはインターネットに繋がるPCを必携とする。 ※月に一回程度、リモート演習を行う予定

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	ガイダンス	シラバスを基に本演習の目的と内容、進め方等について説明する。	☐
第2回	現状の確認	卒業研究について、前期および夏季休暇中の取組についてプレゼンテーションする。	☐
第3回	研究テーマの確認 1	各自がここまで準備してきた卒業論文のための研究テーマの内容をプレゼンテーションする。	☐
第4回	研究テーマの確認 2	各自がここまで準備してきた卒業論文のための研究テーマの内容をプレゼンテーションする。	☐
第5回	研究テーマの確認 3	各自がここまで準備してきた卒業論文のための研究テーマの内容をプレゼンテーションする。	☐
第6回	研究テーマの確認 4	各自がここまで準備してきた卒業論文のための研究テーマの内容をプレゼンテーションする。	☐
第7回	論点の整理 1	設定した研究テーマに基づき、卒論内で扱う論点を整理して、その内容をプレゼンテーションする。	☐
第8回	論点の整理 2	設定した研究テーマに基づき、卒論内で扱う論点を整理して、その内容をプレゼンテーションする。	☐
第9回	論点の整理 3	設定した研究テーマに基づき、卒論内で扱う論点を整理して、その内容をプレゼンテーションする。	☐
第10回	論点の整理 4	設定した研究テーマに基づき、卒論内で扱う論点を整理して、その内容をプレゼンテーションする。	☐
第11回	卒業研究の概要発表 1	完成した卒業論文の内容（概要）についてプレゼンテーションする。	☐
第12回	卒業研究の概要発表 2	完成した卒業論文の内容（概要）についてプレゼンテーションする。	☐
第13回	卒業研究の概要発表 3	完成した卒業論文の内容（概要）についてプレゼンテーションする。	☐
第14回	卒業研究の概要発表 4	完成した卒業論文の内容（概要）についてプレゼンテーションする。	☐
第15回	総括	4期にわたる本演習での活動を総括する。	☐

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)
事前： 演習は学生によるプレゼンと、その内容についての全員での討論が中心となる為、プレゼンすべき内容を事前に調べておく（2時間程度）。事後： プレゼンした学生は、討論で得られたコメントをまとめて自分のプレゼン内容をブラッシュアップする（2時間程度）。なお卒業論文を演習の活動時間内だけで完成させることは現実的に不可能なので、その作成作業は必然的に講義外の時間における取組となる。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)	
各自が調べ、まとめた内容はプレゼンおよびその後の討論を通して、全体で知識・情報を共有する。	

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)		
区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
思考力・判断力・表現力	◆ 2021地域ビジネスDP2	各自が選択した行動経済学に関するテーマについて幅広く思考し、またそのテーマについて多面的に判断し、他者に自分の考えを表現、発信することができる。
主体性	◆ 2021地域ビジネスDP3	行動経済学に関する新しい概念を自ら学び、他者と協力して疑問や課題を解決・分析することができる。

■成績評価(Evaluation method)				
筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			50%	50%
授業内試験等(具体的内容)(Specific contents) 成績評価については、演習中のプレゼンテーションをはじめとする演習への取組具合や、卒業研究の結果等を基に、総合的に評価する。				

■テキスト(Textbooks)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	必要に応じて随時、指示する。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	阿部誠 監修『サクッとわかるビジネス教養 行動経済学』新星出版社	
2	その他、必要に応じて随時指示する。	
3		
4		
5		